

会報

みらい

発行人 神奈川県
身体障害施設協会
代表者 松永 徹
編集 広報委員
印刷 アガベセンター

contents

身体障害施設・事業所に関する
制度動向・・・P1
各種大会報告・・・P1-2
自主製品紹介・・・P2
日中活動委員会報告・・・P2

平成22年度 身体障害施設・事業所に関する制度動向 神奈川県身体障害施設協会会長 水平線施設長 松永徹

季節は新たな春を迎え年度末となりました。1年のまとめとして、昨今の制度動向の課題についてご報告致します。

◎障害者制度改革推進会議の動向

第11回障害者制度改革推進会議総合福祉部会が平成23年1月25日に開催され、障害者制度改革のための第二次意見が出されています。この「意見」は、平成23年の通常国会に障害者基本法の改正案を提出することを前提としてまとめられているものです。そこでは、障害者基本法改正の趣旨・目的が3点示されています。

- ①個性と人格を認め合うインクルーシブ社会の構築
- ②障害概念を社会モデルへ転換、基本的人権を確認
- ③施策の実施状況を監視する機関の創設

また、基本理念として、4点のことが上げられていますが、そのなかで、特に注目することは、『「地域社会で生活する平等の権利」の確認』と「必要な支援を受けた自己決定に基づく社会参加の権利の確認」というところです。

現行の、身体・知的・精神という3障害の区分は、大まかに医療モデルに基づく分類といえますが、これが果たしてどのように転換しえるのか。たとえば、手帳制度の変更が行われるのか。障害が本人の機能障害という狭い限定ではなく、社会・環境との相関関係により生まれてくるものというのが、社会モデルの捉え方ですが、それをどのように制度の中に取り入れるのか。最大限の可能性を考えれば、現在の障害福祉のあり方を根本から見直すことになるだけに、大いに注目されます。

◎障害者自立支援法改正

一方で、障害者自立支援法が、新たな法律ができるまでのつなぎとして改正されました。そこでも、以下のように、いくつかの大きな変更が行われています。負担能力に応じた負担が原則であることの法律上の明確化。障害福祉サービスと補装具を合算して、利用者負担の上限を決める。サービス利用計画作成の対象者を大幅に拡大し、支給決定の前にサービス利用計画を作成し、支給決定の参考にする。グループホーム、ケアホームの入居者への利用に伴う費用の助成(家賃補助に充てるもの)。重度の視覚障害者の移動支援の個別給付化、等々。

この改正された内容自体は、当面の必要な措置といえますが、障害者制度改革が現政権下でなされ、「総合福祉法」の制定など、まだ先のことで、法律とし

ての成立の見込みはどうか、政権の行方も懸念される状況では、当面の措置といながら重みをもっています。

◎医療的ケアの法制化への動き

厚生労働省では、「介護職員等による痰の吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会」を開催し、介護職員等が、一定の研修を受け、医療的ケアを不特定多数の利用者に提供できる法整備と研修体制の構築を進めており、この春の法制化を目指しています。旧身体障害者療護施設である障害者支援施設の県内各施設でも、内容は様々ですが、「医療的ケア」は欠かせない課題です。医療職に限定された「医療的ケア」が生活支援員にも可能となれば、利用者支援の向上につながるものと言えますが、実際に取り組むにあたっては、研修の在り方、生活支援員の負担と責任の増大、福祉職と医療職の連携の在り方など、大きな課題を解決していかななくてはなりません。

また、これまで特定の支援者と利用者の間で行われていた「違法性の阻却」という法律学的な考えに立脚した「医療的ケア」が、後退しかねない危惧が関係者から表明されています。いずれにせよ、身体障害施設協会としても、「医療的ケア」の法制化により、各施設での「医療的ケア」のあり方について認識の共有が必要な段階にきています。

◎県の補助について

神奈川県身体障害施設協会では、神奈川県知的障害福祉協会等と連携し、神奈川県に数年に及び県の補助のあり方について要望してきました。来年度はいよいよ神奈川県全域(政令市、中核市を除いた市長村)にある施設、事業所では、県の「運営費補助金」が0になります。これにより、県内施設・事業所の運営体制の格差がますます開くことになります。一方で、「運営費補助」に変わる新たな補助として行われている「サポート事業」も低迷しており、今後、実施主体である各市町村が積極的に取り組んでいく姿勢も見えません。今後の入所施設は、施設サービスでなければ必要な支援が得られない人に、利用がシフトしていくものと思われます。そのようななかで、支援の手となる生活支援員の充実は欠かせません。福祉施設への求人難もあり、県域各施設の状況は厳しさを増しています。県、市町村行政の理解、援助は欠かせません。行政間の押しつけあいではなく、ともに何とか手だてを考えていただきたいものです。

ローリングバレーボール大会

平成22年9月18日(土)座間市立市民体育館にて、神奈川県身体障害施設協会主催第21回神奈川県ローリングバレーボール大会が開催されました。開会式では、遠藤座間市長様よりご祝辞を頂き、選手・職員・関係者一同気持ちも新たに大会に臨まれたのではないかと思います。

全20チーム(1チームが残念ながら欠場)によるトーナメント方式により、熱のこもった試合が各コートで繰り広げられました。1プレーごとに一喜一憂し、選手一人一人が全力で競技に取り組んでいる姿勢に、応援するチームメイトや職員も自然と熱が入り、チームとしての一体感や団結力が生まれていました。

試合結果として、Aブロック優勝・江ノ島バナナボーイズ、準優勝・RV Cハッスルかわせみ、3位・ここにこ会ブルー、Bブロック優勝・ヨコハママケシラーズ、準優勝・鳥帽子岩ダイナマイトブラザーズ空組、3位・足柄リンクス、Cブロック優勝・ドラゴンNo.1、準優勝・速攻Aチーム、3位・よこはまマリファイターズとなりました。

今回の大会を通じて、ローリングバレーの楽しさを理解、実感し、一人でも多くの競技者に参加して頂き、お互いの交流を深め、競技力の向上に繋がれたらと感じています。

また、当日は多くのボランティアの方々にご協力を頂き大会を盛会裏に終えることが出来ました。有難うございました。

体育委員会 湘南希望の郷 下條



特集 各種大会結果報告

施設対抗卓上競技大会

平成23年2月5日(土)、県総合リハビリテーションセンター体育館にて第43回卓上競技大会が開催されました。

当日はインフルエンザの影響もあり、欠席者が多数出ましたが、選手116名、付添い者、応援、見学を含めると総勢約250名が集まり、熱戦が展開されました。特に団体戦では総合得点の1位と2位が同得点となり、上位入賞者数で順位が決定するという大接戦でした。また、最も印象的な選手紹介ポスターに贈られる審判員特別賞には、すこやか園さんが見事選ばれました。



試合結果は以下の通りです。(スペースの都合で個人は優勝者のみの紹介です。ご容赦ください。)

- 囲碁の部 優勝 中西 英文さん(七沢更生ライトホーム)
- 連珠の部 優勝 郡司 和徳さん(丹沢レジデンシャルホーム)
- 将棋の部 優勝 樽角 好昭さん(太陽の門デイサービスセンター)
- 挟み将棋の部優勝 君島 喜代蔵さん(太陽の門デイサービスセンター)
- オセロの部 優勝 日比野 克明さん(丹沢レジデンシャルホーム)
- ダブルスオセロの部 優勝 岩崎 正典さん(湘南希望の郷)
山崎 進さん(湘南希望の郷)
- 団体の部 優勝 丹沢レジデンシャルホーム (33点)
準優勝 アガベ壺番館 (33点)
第3位 湘南希望の郷 (31点)
- 審判員特別賞 すこやか園

来年も皆様のご参加をお待ちしております。

卓上競技委員会 事務局 ソーレ平塚 島田

